

いしづち

愛媛労災病院広報紙第6巻第1号

(通巻第43号)

2008年1月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、
そして地域の人々のために
信頼される医療を目指します



新しい年を迎えるにあたって

院長 篠崎 文彦

新年明けましておめでとうございます。お正月いかが過ごされましたか。今年は天候にも恵まれ、比較的暖かい新年を迎えたように思います。

さて去年は、当愛媛労災病院にとって激動の1年間でした。6月末には常勤の眼科医がいなくなり、また12月には透析の専門医が大学の人事で異動することになり、透析室を一時的に休止せざるをえなくなりました。また一昨年は小児科の撤退、診療報酬マイナス改定など、経営的にも当院にとって大きな痛手でした。透析部門を一時的とはいえ休止したことに対し、日頃から当院を愛し、信頼されている患者様には大変ご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。残念ながら、今のところ眼科医、内科医(透析)、小児科医の常勤医師については目途が立っておりません。私もいくつもの大学の医局を訪問し、教授にお会いしお願いしたり、専門誌に医師の募集をかけたりにしていますが、今のところ朗報はありません。毎日何かせねばと気持ちちはあせるものの、打つ手がなく思案する

ばかりです。しかし、これからも医師確保については全力をつくす所存でございます。

当院に限らず愛媛県内は、松山を除けばどこの都市も医師不足で、病院勤務の医師が極端に減っております。残っている医師は過酷な勤務を強いられ、昼夜を問わず頑張っているのが現状です。国の政策とはいえ、医師不足を招いた大きな原因は、新医師臨床研修制度ができ、大学で研修する医師が少なくなったことにあります。ほとんどが東京や大阪など大都市の有名病院で研修をはじめたことがきっかけとなり、大学病院の医師が減少し、地方の病院へ派遣することができなくなったわけです。このような状況がいつまで続くかはわかりませんが、人がいて病人がいる限り、都市であろうと地方であろうと、同じように病院にかかれるようにするのが政治や行政の役目だと思っています。地方の医療が崩壊しないよう我々も努力しますので、引き続き愛媛労災病院に対してのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

地域医療連携行事を振り返って

地域医療連携室 友澤 尚文

本年の地域医療連携室の行事は3回行われた。9月27日には川崎医科大学の乳腺甲状腺外科の園尾 博司教授を招いて「わが国の乳がん診療の現状と展望」の特別講演と循環器科の原田 希先生の「当院におけるマルチスライスCTによる冠動脈評価」の講演が行なわれた。いずれも自らのデータに基づいた迫力ある内容で、時の経つのを忘れる思いで拝聴した。これらの疾病は今後も増加の一途をたどると思われ、この分野での診療が発展するきっかけとなれば幸いである。

10月22日には、主として近隣の医療施設や介護施設のスタッフを対象に、PEG(内視鏡的胃瘻造設)についての勉強会が行われた。地域医療連携は本来、草の根の活動と思われるが、まさに地域に密着した貴重な勉強会であった。PEGは高齢化社会にあって今後ニーズが高まると思われる。

PEGの実施やケアにはご苦労が多いと思われるが、演者の藤井先生、妻鳥師長補佐には地域医療連携パス作成を視野に、先頭に立って近隣の医療機関との連携強化をお願いしたいと思います。

11月15日には愛媛大学医学部放射線科の望月 輝一教授を招いて「心臓CTの最前線」の演題でセミナーが開催された。ご講演は主として冠動脈CTの良質な画像の獲得についてで、基礎から将来の展望まで幅広くわかりやすく紹介していただいた。当院もマルチスライスCTが導入されており、興味深くまた現実感を持って拝聴できた。検査の非侵襲化に向けて、いち早くマルチスライスCTを導入したことは、本院の大きな財産となったと思われる。

年3回の地域医療連携の行事は、3者3様に特色ある内容で、また開催回数も疲労感を覚えない程度でよかったと自画自賛しているが、開催時期をいまま少し分散できていたらと反省している。皆様には今後ともご協力とご支援をお願い申し上げます。

新居浜公開糖尿病教室

リハビリテーション科 堀内 桂

11月10日にリーガロイヤルホテルで新居浜公開糖尿病教室が行われました。山内病院、十全総合病院、住友別子病院と共に当院も「糖尿病、正しい知識と自己管理」のテーマの下に、地域住民の健康増進に貢献すべく参加しました。参加職種は糖尿病療養に関わる医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士及び事務職員です。

まず初めに血糖検査、医療相談、メーカーによる糖尿病用食品や、血糖測定機器の展示があり、続いて各病院が糖尿病の基本、食事、運動、服薬について寸劇やクイズなど趣向を凝らした方法で参加者に紹介、指導しました。中でも当院の看護師大山、神野の2大女優?主演の「運動編」は、共演した中井医師の脚本と共にテンポのよいセリフ廻しが素晴らしく、会場の笑いを誘っていました。

最後のプログラムは理学療法士による体操教室「すわろピクス」です。すわろピクスは椅子に座って行う体操であり、体力のない方や高齢者でも音楽に合わせて楽しく体を動かすことが出来ます。参加者だけでなくスタッフも一緒になって気持ちのよい汗を流すことができました。



生き生き幸せフェスティバルに参加して

患者サービス向上委員会 味生 俊

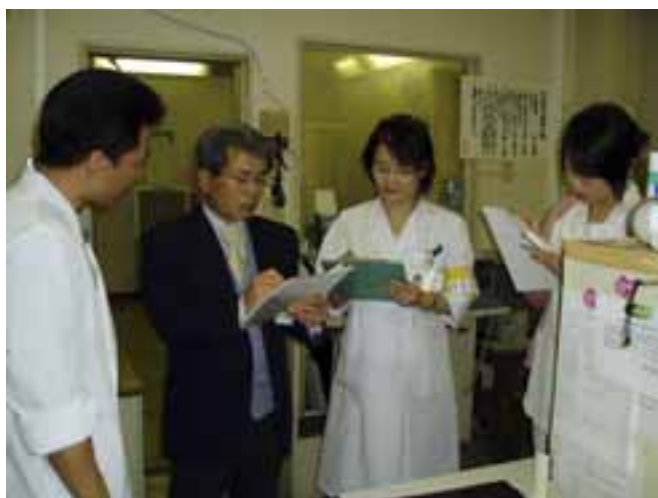
糖尿病週間行事の一環として、毎年病院玄関ホールで「医療・栄養相談 etc」を実施してきましたが、今回から新居浜市主催の行事である「生き生き幸せフェスティバル」に共同企画させていただくことになりました。趣旨は、「院内の糖尿病の予防活動を広く市民に知ってもらう」ことであり、平成19年9月30日(日)の10:00～14:00の間に新居浜市総合福祉センター1階にて、保健センターの協力のもと開催されました。活動内容は、測定コーナーでは身体測定、体脂肪測定、血糖検査を実施し、相談コーナーでは医療、看護、運動、栄養、服薬と注射の担当者が順次個別に相談に応じました。また、展示コーナーではさまざまな食品の1口サイズ(スプーン1杯分)のエネルギー量を展示し、カロリー摂取量に関心を持ってもらう試みがなされました。

当日は、あいにくの大雨で駐車場も手狭と悪条件が重なったにもかかわらず、168名の来訪者を迎え大きなトラブルもなく終了することができ、市民の皆さんの評価もまずまずであったように思えました。今回は初めての参加でしたが、勝手も分からず無我夢中で行動せざるを得なかったのですが、この経験を生かして来年度以降は更に市民の皆さんのお役に立てるイベントを開催したいと思います。休日返上で参加していただいたボランティアの皆さんお疲れ様でした!そして、来年度もよろしく申し上げます。

医療安全パトロールに参加して

看護部 村上 ゆかり

今年も「医療安全推進週間」にちなんで、安全パトロールが行われました。これは「安全確保の充実と検証、職員のリスクマネジメント意識の向上、医療安全対策マニュアルの重要性の認識を浸透させる」ことを目的とし、毎年この時期に実施されています。パトロールに際しては、全職種でパトロール隊を作り各部署を巡回しました。初めてのパトロール参加でしたが、他部署での活動が理解でき、また自分の知識を再確認する良い機会となりました。このパトロールによって指摘された問題点は、ひとつひとつ皆で話し合い、改善への取り組みをします。今後もこのような機会を通じて安全に対する意識を向上させていくことが大切であると感じました。



医療安全標語の取り組み

リハビリテーション科 近藤 大輔

今年度当院では医療安全推進週間の新たな取り組みとして、職員から医療安全標語を募集しました。

普段からの皆様の医療安全に対する認識が高いのか、金一封に目が眩んだのかは別にして、57 題という多数の応募 (中にはブラックな標語もあったのですが・・・) がありました。この場を借りて皆様に感謝の意を述べたいと思います。ありがとうございました。

その中で厳選された5題の標語を、期間中に職員ならびに患者様に投票していただいた結果、会計課近江和明くんの作品、「気をつけよう、慣れと油断と思い込み」が最優秀作品に選ばれました。おめでとうございます。日常の業務が忙しければ忙しいほど、慣れ・油断・思い込みによって引き起こされる事故も多いと思います。もう一度、一人ひとりがこの標語を思い返し再確認して頂けたらと思います。また、職員の皆様が今回の標語を考える中で医療安全に対する意識やモチベーションが高まれば幸いです。

余談ですが、この「いしづち」が皆様の手元に配布される頃には、すでに金一封が近江くんに手渡されていることを願っております。

医療安全パネルディスカッション

医療安全管理者 高橋 美保

12月7日、医療安全推進行事の一環としてパネルディスカッションを実施しました。今回は「オーダリング導入に伴う医療安全への効果と課題」と題して、医師、薬剤師、看護師、医事課員がパネリストとして発表しました。当院では、7月にオーダリングを導入しており、タイムリーなテーマであったためかフロアからの発言も含めて活発な意見交換がなされました。今回のディスカッションが種々の問題解決に即つながるという事ではありませんが、職員が参集し忌憚のない意見を交わすことは、その第1歩になるのではないかと感じています。ディスカッション後の職員アンケートにおいても「定例で開催されるので刺激になってよい」「お互い協力できることはしていこうと思った」などの意見が寄せられました。今後も継続して開催し、職種間の垣根を越えて医療安全について考える機会にできたらと思います。

市民医療講座を開催して

総務課 脇本 隆史

今年度の市民医療講座は、今田篤主任薬剤師と森高正人主任放射線技師の2名により行われた。はじめの講座は「お薬の安全な使用方法について」と題し、薬の正しい保存方法や調剤手帳について等、普段私たちが知っているつもりの薬の基礎知識を患者さんに分かりやすく、また患者さんからの質問を交えながら行われた。二つめの講座は「MRI検査を安全に受ける方ために」と題し、MRI室への持ち込み不可の物や、もしも金属がMRIの磁石に引き付けられたらどのように飛んでいくのかなど、注意しなければならない事例を出しながら興味ある映像とともに紹介し、両講座ともに患者さんの関心を引き付けながら盛会のうちに終了した。医療安全の意識が高まっている昨今、この2題の講座を通じ、改めて当院の医療安全に対する取組みを患者さんに理解してもらい、また患者さんにも安全に受診、治療を行ってもらうための理解・協力をいただける良い機会になったのではないかなと思う。あらためて医療安全は患者さんと病院相方の協力の上に成り立っていると感じられた講座であった。



患者様におせち料理提供

栄養管理部

少しでも多くの入院患者様にお正月の雰囲気味わって頂くため、私達栄養管理室一同は、治療食の方にも食事基準に合わせた内容で、心を込めておせち料理を作りました。



クリスマスコンサート

患者サービス向上委員会

12月初旬から25日までエントランスホールに例年恒例となっているクリスマスツリーやオーナメントやイルミネーションの飾り付けを行いました。

また、12月20日には労災病院OBマンドリン同好会の方々にご協力いただき、コンサートを開催し多数の患者様などにお集まりいただきました。クリスマスソングの他にふるさとメドレーや懐かしい楽曲をマンドリン、ギター、ハーモニカ、シンセサイザーの美しく優しい音色で演奏していただきました。参加された方々も歌詞カードを見ながらコーラスをしていただきエントランスホールはクリスマスムードにまつまれました。

通院や入院中の患者様又はご家族の方々が、ひとときの癒しの時間を感じていただけていれば幸いです。



地域医療連携室より

あけましておめでとうございます。まだ寒さが厳しい季節ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？昨年は地域医療連携室にとっては、「動」の1年だったように感じます。例年、年1回程で開催していた勉強会等の行事が、19年度は3回の実施となりました。詳細については、地域医療連携室長である友澤副院長が執筆した今月号の記事をご覧ください。

近隣の医療機関の先生方はもちろんのこと、介護施設等の看護・介護職員の方々を対象とした勉強会の開催も行うことができ、「連携」を強く意識することができた1年だったように思います。

連携室の日常業務を行いながらの準備は、タイトなスケジュールや連携室のスタッフの交代等も相まって正直なところ不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、皆様の協力のおかげで3回とも無事に終了することができました。この場を借りて御礼を申し上げます。大変有難うございました。反省点も多々ありましたので、来年度の実施時に生かしていきたいと思っております。

今年も地域医療連携の活性化・スムーズ化等ができるよう頑張っまいると思いますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。

(地域医療連携室 橋本)

編集後記

今年も残り少なくなりました。誰かさんの予言とは裏腹に地球が健在し続けて早8年です。びっくり！でも、長生きして頂きたいです。2008年は、私事ですがクレジットカードの有効期限がきれる年です。これまた時の流れの早さを感じてしまう出来事です。

さて、年間を振り返れば、オーダリングシステム導入に向けての皆の団結力は素晴らしいものがありました。始動していかがでしょうか？操作に慣れるまでが大変などの声も聞こえてきますが、早く業務の効率に結びつけていきたいものです。

最近、医療状況の急速な変化に戸惑いを感じています。当院に

おいても問題は山積みですが、職員一人ひとりが一日のうち3分間、病院の将来などを考えるだけで、とても大きな力になり解決できる気がします。よりいっそう地域と勤労者の皆様に信頼される病院を目指しましょう。

今回の広報紙は「地域連携室の活動」から「医療安全週間の活動」「栄養管理室からの正月料理」と盛り沢山です。手にして見ると病院の現状や取り組んでいる課題など様々な人が協力し活動しているのがわかります。これからも「いしづち」を読んでもらうことで、働くみんなが同じ土俵に上られるような気がします。そこから始まることもきっとあります。きっと…！！(Y.N)

広報紙編集メンバー：病院長(篠崎文彦)、副院長(友澤尚文)、医局(稲見康司、佐藤晃)、看護部(西村百合枝、高橋美保、泉敦子、山根千春)、総務課(楠本英行、山内正)、医事課(橋本直子、塩見誠理)、薬剤部(佐々木優子)、放射線科(正岡憲治)、検査科(阿南孝志)、リハ科(小川進太郎)、栄養管理部(清水亮)